

写真〔もも組 Aくんのお当番カード〕

◇ 教材作成の理由

Aくんは、広汎性発達障害の男児である。順番に回ってくる当番活動を楽しみにしている様子がみられるが、自分がいつ当番なのかわからず、繰り返し教師に質問してきた。そのため、本児がいつ当番なのか理解できる当番カードを作製する必要性を感じた。



カードの台紙はクラスカラー（桃色）を使用。同一教室の年長児（あお組 青色を使用）との違いが一目でわかるようにした。

上部には、名前を自分で書くことによりカードに愛着を持ち、当番活動への意識が高まるよう、園児の名前を教師が鉛筆で書き、それを園児がなぞるようにした。

中心は、園児の顔写真、下部は、園児の描いた絵である。

◇ 指導のねらい

- ・ 自分のオリジナルの当番カード（マイカード）を喜んで作ろうとする。
- ・ 当番になることへの期待を持つ。
- ・ 当番活動を通して、みんなで生活する中で、自分の役割があることを知る。

◇ 基本の使い方

当番カードは、毎日の当番活動（飼育当番・お弁当時の机拭き・やかん運び・配布物をもらいに行く）の当番を表示するために使用する。

◇ 指導の評価

この当番カードは、前日に次の日の当番を知らせることに使用してみた。その結果、本児は自分の当番の日を理解し、それを心待ちにし、さらに意欲を持って取り組もうとする姿が見られた。

また、園児本人が自分の当番がわかるだけでなく、自分以外の友達が当番の時も誰が当番かすぐにわかることが出来た。

加えて、顔写真を使用したため、同じ学年の友達の名前や顔、違う学年の友達の名前や顔をしっかりと覚えるきっかけとなった。

特別な教育的支援が必要な幼児だけでなく、帰国子女の園児にも役立った。